

音の輪・音の和



一般社団法人
兵庫音楽療法士会

2019年3月発行 No. 9

『理事長になって思うこと』



一般社団法人兵庫音楽療法士会

理事長 さやもと 尚子

昨年(2018年)4月に理事長をお引き受けしてから1年が過ぎようとしています。理事は覚悟していましたが、理事長をお引き受けすることになるとは思ってもいませんでした。いざ新体制で動き始めると、他の理事6名がそれぞれしっかり動いているのを眺めて、大変わくわくする思いがありました。この6人の仲間と運営に携わっていくことが楽しみになったものです。でも「世の中そんなに甘くない」の言葉通り、全員が新人である理事は日々増えて行く「？」に右往左往し始めました。それに巻き込まれながらも、1つ1つ前理事他に確認したり、みんなで話し合っていくうちに「？」が少しずつ減っていくことが嬉しくて、私は運営会議に出席するのが、今もとても楽しみです。

今年度取り組んだ大きな仕事と言えば、やはり県内5地域【明石・加古川・赤穂・淡路・豊岡】で開催した7会場でのコンサートです。それぞれ

に担当理事を配置し、出演者として練習にも参加しました。きっと全員、体力的にはしんどくても楽しかったと思います。私も楽しく参加し、応援に行き、本番では多くの会員と出会い、そして多くの県民の皆さまとも出会うことができました。ご一緒できた会員の皆さま、応援してくださった皆さま、すべての関係者の皆さま、そしてお客様、皆さまに感謝いたします。

さて、今年度は兵庫県政150周年の年でした。150年の歴史の中に兵庫県音楽療法士の養成や、音楽療法活動への力添えも残っていくのだと思うとなんだか誇らしい気持ちです。私はスローガンの「五つの国で、一つの未来へ」はとても素敵だと常々思っていて、一人一人違った個性を持った兵庫県音楽療法士ではあっても目指す未来は一つでありたいと願っています。それがどういう未来であるのかは、日々のセッションを真摯に積み重ねていく中で見いだしていくのだろうと思います。当会の前理事長が「未来へ向かって確かな歩みを進める時期が来たのだと感じております。」という言葉を残しています。

会員がしっかり歩んでいけるよう、理事全員の力と心を合わせて、一步一步丁寧に進んでまいりたいと思います。

もくじ

- 『理事長になって思うこと』 1
- 県内参加型コンサート開催事業 2,3
- 各種団体依頼のコンサート 4
- 第7回 山口陽雄記念賞授与式 4
- 2018年度研修会・事例研究会事業 .. 5
- 音楽療法普及・定着強化事業 5
- 音楽療法士と他の専門職との連携 ... 6,7
- 楽器紹介&音楽の豆知識 8

**兵庫県音楽療法士会の活動のひとつに、音楽療法の更なる普及と発展を目指した〈コンサート活動〉があります。
今年度も県内各地で多数のコンサートを行いました。**

県内参加型コンサート開催事業（兵庫県補助事業）

多くの県民の皆様に音楽療法の体験をしていただきたいという思いから、2017年度より「県内参加型コンサート開催事業」が始まりました。「ぜひ継続してほしい」というお声をたくさんいただき、2018年度も県内5地域【明石・加古川・赤穂・淡路・豊岡】7会場で開催し、約100名の兵庫県音楽療法士が出演、約800名のお客様がご来場くださいました。うち5会場でのコンサートの様子を掲載いたします。

●2018年10月27日（土）
明石市民会館（アワーズホール 中ホール）

**いきいき元気！健康応援コンサート
～音楽療法士とともに～**

心配された前夜からの雨も上がり、10～80歳代の約160名の方が来場され、開演まで、『日本の唱歌メドレー』のピアノ演奏を聴いて頂きました。

マリンバとピアノによる『情熱大陸』の演奏で華やかに開演し、客席の皆様と口腔体操・上肢運動を行った後は、コーラス隊による『夜明けのスカット』『トルコ行進曲』、3曲目からの『紅葉』『学生時代』は客席の皆様にも参加して頂きました。楽器活動では昭和歌謡の『恋のフーガ』『東京ブギウギ』を演奏し、客席にも鈴・鳴子を配り、会場が一丸となってリズム合奏で盛り上がりしました。その後、ピアノ演奏『枯葉』を聴きクールダウン。下肢体操では『オー・シャンゼリゼ』に合わせて会場全員が笑顔で積極的に手足を動かし、最後は『七つの子』等のトーンチャイム奏の音色にほっこりして、一緒に口ずさむ方もおられました。

「参加型で、歌ったり身体を動かしたりできて楽しかった」「色々なプログラムがあって楽しかった」などの感想を頂きました。（H.I）



●2018年10月28日（日）
加古川市総合福祉会館 2 階大ホール

音楽療法コンサート 歌って笑って世界一周！！

爽やかな秋晴れの日、〈世界一周〉のテーマを受け、「当機にて皆さまを歌って笑って世界一周旅行にお連れ致します」という客室乗務員の挨拶からスタートしました。曲をイメージした映像と共にバイオリンとピアノによる『小さな世界』が始まると、会場から手拍子が起こりました。コミカルな旅行者に扮した音楽療法士2人が進行を務め、エコノミー症候群にならないようにと『茶色の小瓶』『コロブチカ』に合わせて手指や下肢を動かすと、子どもから高齢の方々まで熱心に参加され、会場は笑いと熱気に包まれました。ミュージックベル演奏では「音楽療法士と一緒に鳴らしてくれたから安心して楽しめました」という声や、『情熱大陸』に合わせてスカーフを振る様子に「息子が音楽に合わせて自分を表現する姿に涙が出ました」という声が聞かれました。最後は『赤とんぼ』を歌って無事日本に帰国。「楽しくてあっという間に時間が過ぎました」「歌って、笑って、動いて心も体も軽くなった」「また近くでやってほしいです」などの感想も頂きました。

ご来場下さった方々、そして関わって下さったすべての方々に感謝するとともに、地域に根差した活動の意義を改めて感じる有意義な時間となりました。（M.H）



●2018年11月24日（土）
赤穂市文化会館（ハーモニーホール 小ホール）

**赤穂市 人権・男女参画フォーラム 第1部
音楽療法士による参加型コンサート いろ・色・音楽会**

紅葉美しい絶好の行楽日和の日、コンサートはバイオリンとピアノによる演奏『小さな世界』からスタートしました。そして『のびろのびろだいすきな木』の曲に合わせて、ゆったりと身体を動かしてリラックスした後は、『タッタ』の合奏です。会場のお客様も思わず立ち上がり、音楽に合わせて手を叩いたり全身を使って踊ったりされていました。

合奏の後は、フクロウやウグイスの鳴き声の効果音と映像を観ながら朗読による『たぬきの糸車』を鑑賞しました。そしてペープサートや柔らかい大きな布を使っていろいろな色を楽しみながら『どんな色が好き』を皆で歌いました。最後は全員で『世界がひとつになるまで』を合唱し、会場のお客様と歌声を響かせて幕が下りました。

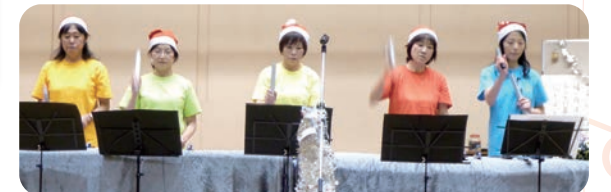
赤穂では初めての参加型コンサートでした。「また来てね」「楽しかったよ」「ほのぼのとした気持ちになりました」などの声も頂き、笑顔あふれる楽しいコンサートになりました。（Y.O）

●2018年12月9日（日）
淡路市立サンシャインホール

南の国のクリスマス ～歌って踊ってカーニバル～

小さな子どもから大人までたくさんの方々がご来場下さいました。

トーンチャイムの『ジングルベル』のメロディーと共に、コンサートが始まりました。次に、お猿のジョージが現れて『アイアイ』を踊りながら歌い、『バナナくん体操』では会場の皆さんも席を立ち、一緒になって元気よく踊りました。その次は、『うちわでチャチャチャ』『狙い撃ち』を、うちわを叩いてリズムカルに楽しみ、コンサートの中盤には、大王サンタが登場し、『南の島のハメハメハ大王』のジェンベのリズムを皆さんがそれぞれに持った楽器で演奏して盛り上がりしました。「色々な楽器を鳴らすことができて良かった」という感想が多く、「また来年も」という嬉しいお声も複数頂きました。（S.H）



●2018年12月22日（土）
アイティ 7F 豊岡市民プラザほっとステージ

**はばたけフェスタ 9th コンサート
楽器をならそう 歌って踊ろう
わいわいガヤガヤ^_^コンサート**

地域の子どものからご高齢の方まで約80名が来場されました。トーンチャイムとミュージックベルによる『もみの木』などのクリスマスメドレーから始まり、会場にクリスマスの雰囲気が漂う中、客席の皆さんと『赤鼻のトナカイ』などを歌い、『そりすべり』では皆さんに面白い音色の楽器を演奏していただきました。豊岡といえば、蟹！ということで、『エビカニクス』では、息が上がるほど身体を動かし、会場と一体となってコンサートは進みました。また、クラリネット、サキソフォン、鍵盤ハーモニカなどの編成で『ホワイト・クリスマス』『クリスマス・イブ』などのメドレーを聴いていただきました。「身体を動かすこともできて楽しかったです」「子どもも参加できて良かったです」などの感想も頂き〈はばたけ手をつなぐ育成会〉利用のみなさんと地域の方々とを音楽で結ぶ、有意義で楽しい時間を過ごしました。（S.T）



各種団体依頼のコンサート

●神戸介護老人保健施設協会主催「訪問コンサート」

2003 年度から、神戸介護老人保健施設協会主催によるコンサートを開催させていただいており、音楽療法士が施設へ出向く「訪問コンサート」の形になってから今年度で 9 年目になります。(当初は大きな会場でコンサートを開き、施設からお越しいただいていた。)

今年度は、神戸市内の介護老人保健施設 10 施設に訪問し、1 施設に 3 ～ 5 名、延べ 35 名の音楽療法士が約 1 時間のコンサートを行いました。聴いていただくだけではなく、一緒に歌ったり、身体を動かす等、音楽療法の視点からプログラムを組んでコンサートを行いました。施設からは「大変盛り上がり、認知症の方が 1 時間集中して参加することが出来たのは良かった。」「普段は上がりにくい腕もよく上がり伸びていた。」「大きな声で歌われていた。」「普段と違う良い表情が出ていた。」等、また参加された皆様からは、笑顔で「楽しかった。」「嬉しかった。」「また来てね。」等のお言葉を頂きました。



●第 11 回全国精神保健福祉家族大会「みんなねっと兵庫大会」

精神保健福祉家族会の全国大会が兵庫県で開催され、大会 2 日目の 11 月 27 日(火)神戸国際会議場にて、分科会の最後に兵庫県音楽療法士会が参加型のミニコンサートを行いました。ヘルマンハーブとアイリッシュハーブの演奏後、楽器紹介をして、映像で音楽療法の現場の様子を紹介しました。トーンチャイムとピアノの演奏の後、ツリーチャイムも入れて体験して頂くと、会場のあちらこちらから「ぜひやってみたい」という声が多くあがり、楽器の名前や購入方法の質問が出るなど、珍しい楽器への関心の高さが伺われました。音楽に合わせた手足の軽体操にも真剣に参加され、さらにバイオリンとピアノの演奏『チャルダッシュ』では自然に手拍子が広がるなど、会場に一体感が生まれました。短い時間でしたが、演奏と体験を通して多くの方々に音楽療法的一端を知っていただく貴重な機会となりました。



第 7 回 山口陽雄記念賞授与式



音楽療法の普及発展・音楽療法士の士気向上を図る目的として設立された山口陽雄記念賞の授与式が 1 月 27 日(日)に行われ、松崎聡子会員が受賞されました。審査委員長の阿部恩氏が「多岐にわたる実践活動、各方面における啓蒙活動に加え、東日本大震災の被災地における支援に積極的に関われ、その活動を継続されたこと、兵庫県音楽療法士会発足当初より企画部長として、また 2012 年からは同理事長として音楽療法士会の運営に尽力されました。」と審査講評を述べられました。医療法人社団向陽会 向陽病院理事長 山口紅子氏より、お祝いの言葉と賞状並びに副賞が贈られました。受賞された松崎氏は「この度はこのような名誉ある賞を頂き、ありがとうございます。山口先生には、発会当初より多くの助言と愛情を、時に叱咤激励を頂き前に進むことが出来たと思っています。これまで苦楽を共にした役員の皆様、会員の皆様に感謝申し上げます。これからは自分の臨床を深めることと、今まで学んできたことや実践から得た知識、技術を後進のお役に立てられればと思っています。」と謝辞を述べられました。

2018 年度 研修会・事例研究会事業

4 月・研修会

水上 恵美 氏 日本音楽療法学会認定音楽療法士、大東市子ども発達支援センター非常勤音楽療法士
「音楽療法士の声について ～身体に気づき声を育てること～」

5 月・研修会

「障がい児・障がい者の制度」「高齢者の制度」 兵庫県職員

6 月・事例研究会

那須 貴之 氏 日本音楽療法学会認定音楽療法士、日本心理学会認定心理士
「目指せアセスメントの 1UP (1) 根拠のある見立て (2) 納得できる見立て」

7 月・公開研修会

岡崎 香奈 氏 神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授
「音楽療法士に必要な音楽技能 ～具体的な授業内容の抜粋から～」

8 月・公開研修会

柿崎 次子 氏 大和大学教授
「感覚統合を活かした音楽療法テクニック ～その理論とワークショップ～」

11 月・公開研修会

生野 里花 氏 お茶の水女子大学基幹研究員、東海大学非常勤講師、野花ひととおんがく研究舎主宰
「音楽療法士の自立～わたしたちが育てるわたしたちの音楽療法臨床実践～」

12 月・事例研究会

後藤 浩子 氏 日本音楽療法学会認定音楽療法士、臨床心理士

1 月・公開研修会

片桐 じゅん 氏 日本音楽療法学会認定音楽療法士、米国認定音楽療法士
「地域で子どもの育ちを支援する音楽療法 ～保育所、幼稚園、小中学校との連携～」

2 月・公開研修会

馬場 存 氏 医学博士、東邦音楽大学准教授、精神科専門医・指導医、日本音楽療法学会認定音楽療法士
「精神医学と音楽療法～理論と事例～」

3 月・公開研修会

宮田 広善 氏 医学博士、小児科学会専門医 / 指導医、姫路聖マリア病院小児科顧問 兼 重度障害総合支援センタールルドセンター長
「重い障害のある人たちの育ちと暮らしを創る」

※9 月の事例研究会は台風により中止になりました。 ※講師の肩書は研修会当時のものです。

音楽療法普及・定着強化事業

2018 年度も前年度に引続き、音楽療法の「普及」「定着強化」という目標に向けて 3 つの補助事業を行いました。

「普及事業」

①県内参加型コンサート開催事業

活動実績の少ない地域でコンサート活動を行いました。見るだけ、聞くだけではない「参加する」コンサートです。普段の音楽療法とは少し違いますが、自らが参加することで音楽の楽しさを感じて頂ければと思い企画しました。今年度は 7 会場での実施、延べ 800 名の方々にご参加頂きました。(コンサートの様子は P2 ～ 3)

「定着強化事業」

②お試し体験補助事業

まず一度体験して頂きたい一という思いで企画したものです。本事業も 2 年目になり少しずつご利用も増えてきました。季節ごとや月 1 回の音楽療法へと広がりつつあります。

③定着促進事業

定期的なご利用をお考えの施設様向けの(初年度の音楽療法士の謝金補助)制度です。出来るだけ定期的に続けて頂く事で音楽療法の良さや意義を感じて頂けると思います。

2019 年度も同様の事業を続けられるよう企画準備中です。

新年度になりましたらホームページで事業の有無や内容をお知らせ致しますので、是非ご覧ください。音楽療法を通して県民の皆様の心身の健康維持・促進のお手伝いをさせて頂きたいと思ひます。

●お問合せ E-Mail : sokushin@hmta.jp / FAX : 078-261-9602

～聞いてみました～ 音楽療法士と他の専門職との連携について

音楽療法を実施する主な場である病院、福祉施設等では、多くの専門職が音楽療法の対象となる方と関わっています。病院や福祉施設で、他の専門職と連携して実践している音楽療法士に、「Q.1 連携している職種は？」「Q.2 どのように連携していますか？」「Q.3 どのようにして連携を築いていきましたか？」「Q.4 連携することで見えてきたことは？」の4点を聞いてみました。

介護老人保健施設〔神戸市垂水区〕

- 対象 / 施設入所高齢者
- 形態 / 集団音楽療法、小グループ音楽療法

Q.1 連携している職種は？
→リハビリ助手(2名)、介護士(7～8名)

Q.2 どのように連携していますか？
→リハビリ助手、介護士からは、身体面や精神面等の情報をいただいている。具体的には、身体面では、右手が動きにくい、ご本人に持つ意志があれば、楽器を渡してください等、精神面では、午前中は活動性が高いが午後は低くなる、また外国の方、ご家族との関係性等の情報である。
記録について、リハビリ助手は音楽療法評価の対象となっている方の個々の評価を記載し、介護士は音楽療法中の全体の様子を記載している。終了後は、毎回、担当のリハビリ助手、介護士、音楽療法士で振り返りを行い、それぞれの立場から感じたことを述べて、共通した観察視点から評価している。



〈セッション後の振り返り〉

小グループは、施設行事の発表会に参加するメンバーを対象としている。発表会当日は施設職員が指揮をする。プログラムの組み立てや練習など、発表会当日までのサポートを音楽療法士が行っている。

Q.3 どのようにして連携を築いていきましたか？
→音楽療法導入時、音楽療法を理解いただくために、事務長に説明を行い、当初は作業療法士と音楽療法士で開始した。その後、リハビリ助手が音楽療法の効果を施設内で的確に伝達いただいたことにより、音楽療法の理解を徐々に得ることができるようになり、その頃に音楽療法士は、立場を明確にするためにも施設と契約を交わした。以降は、音楽療法の対象となる方の選抜を介護士に提案する等、音楽療法士から要望を伝えていった。

Q.4 連携することで見えてきたことは？
→音楽療法士の視点だけではなく、他専門職から多様な視点で観た評価ができる。
また、常勤である他専門職に音楽療法の効果や、音楽療法の計画に関わる要望等を施設内でスムーズに伝達いただけていることにより、継続してコンスタントに実践できていると感じている。

病院（精神科・神経科）〔神戸市北区〕

- 対象 / 入院患者
- 形態 / ①能動的集団音楽療法…器楽チーム（治療構造、目標の違う＜器楽Aチーム＞と＜器楽Bチーム＞）、コーラス（病棟コーラス、コーラスクラブ）、ハンドベルクラブ ②受動的集団音楽療法…レコードコンサート

Q.1 どのような職種と連携していますか？
・器楽Aチーム…作業療法士、精神保健福祉士 各1名
・器楽Bチーム…医師、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理士 各1名
・病棟コーラス…作業療法士 1名
・コーラスクラブ…作業療法士 2名、臨床心理士 1名
・ハンドベルクラブ…臨床心理士 1名
・レコードコンサート…作業療法士 精神保健福祉士又は臨床心理士 各1名 看護師も参加
※能動的集団音楽療法では、音楽療法士(常勤2名・非常勤1名)は進行や伴奏等を担い、また器楽チームでは、ひとりひとりに適切な楽譜の編曲を行っている。他専門職は患者さんの側で同じ楽器を担当して個々の患者さんに関わったり、バイオリン等で器楽チームに演奏者として共に参加している。言葉ではなく、音楽を介して目標に向けて関わり、また、遊び心も持ち、患者さんと共感しあうことを大切にしている。

Q.2 どのように連携していますか？
→医師からは、音楽療法を受ける患者さんの処方箋が出される。
音楽療法士が所属するカウンセリング室には、臨床心理士が所属しており、作業療法室、地域医療連携室(精神保健福祉士)の各スタッフと連携し、ひとりひとりの患者像、どういう状況であるか等の情報を日常的に共有している。
また、多職種が一同に参加する、院内研修会、カウンセリング室研修会の他、看護師勉強会等にも積極的に参加し、それぞれの立場からケースを出し合い事例検討を行うことにより、ここでも他専門職と情報を共有している。

Q.3 どのようにして連携を築いていきましたか？
→開院当初から音楽療法は積極的に治療に取り入れられていた。昭和57年に現在の音楽療法士が入職するまでは病院内の常勤職員による実施ではなかったため、諸事情により音楽療法が休みになることもあった。常勤職員として入職以降は、ケースワーカー(当時の職名)の協力もあり、休むことなく継続したことにより、患者さんからも他専門職からも、より信頼と評価を得ることにつながった。昭和58年からはハンドベルクラブも導入した。平成5年からは作業療法の開始により、作業療法の一環として音楽療法を実施し、現在に至っている。

Q.4 連携することで見えてきたことは？
→他専門職の見解を知ること、ひとりひとりの患者さんをいろいろな角度から見ることができ、そして患者さんにとって音楽療法がどのような意味合いがあるのか、再確認することができる。

放課後等デイサービス〔西宮市〕

- 対象 / 重症心身障がい児
- 形態 / 小集団音楽療法

Q.1 連携している職種は？
→看護師、理学療法士、保育士、児童指導員

Q.2 どのように連携していますか？
→看護師には、医療的な側面から見て、使用している音楽のテンポや音量について妥当かどうかのアドバイスを頂いている。例えば、発作が起きたときなどは、音楽が影響していないかなど訊いている。また、理学療法士には身体機能面でのアドバイスを頂く。具体的には、座位の保持や姿勢について、また椅子の高さ角度等や身体を動かすときの支持の仕方等である。保育士、児童指導員には、音楽療法の時間以外の日常の情報を提供いただいている。
音楽療法の時間には、上記の全職種が入ることで、対象児を細やかに援助することができている。
終了後には、毎回、保育士、児童指導員と振り返りを行っている。

Q.3 どのようにして連携を築いていきましたか？
→音楽療法導入時、音楽療法を理解いただくために施設職員に説明を行った。その後も、職員の異動時や、必要と感じた時に個々に説明を行った。他職種の専門性を尊重しつつ、音楽療法の理解も深めて頂くよう音楽療法士から積極的に働きかけた。

Q.4 連携することで見えてきたことは？
→音楽療法中に起きた対象児の行動や反応を、それぞれの専門職が違う視点から多角的に観ることができるようになった。他職種の違う視点からの情報を得ることにより、新たな発見に繋がることがあった。
複数の専門職が協働することは他職種の理解にもつながり、それぞれの専門性を発揮できるという職場環境を整えることはとても大切だと考える。



楽器紹介 & 音楽の豆知識



【楽器紹介】

●マイリトルライヤー

「マイリトルライヤー」は、子どもにも持ちやすい、7弦の小さいサイズのライヤー（竖琴）です。

演奏方法は、胸元に抱えて、やさしく弦を指で弾きます。弦の振動が体に伝わり、音を体で感じることができます。また、小さな子ども達が心地よいと感じると言われているペンタトニック7音階（ドとファがない音階）の「レ・ミ・ソ・ラ・シ・レ・ミ」に調弦されている為、どのように演奏しても優しい音色を奏することができます。また、赤ちゃんや小さな子どもの場合は、大人の膝に抱っこして一緒に弦に触れたりして、楽器の可愛い澄んだ音色を共に楽しむこともできます。

ライヤーは日本では『千と千尋の神隠し』のアニメの主題歌で、歌の伴奏楽器として演奏され、広く世間に認知されたのではないのでしょうか？このアニメの主題歌で使われているライヤーは「ゲルトナー・ライヤー」といいます。他にも色々な種類のライヤーがあり、曲によって使い分けで演奏されています。



【音楽の豆知識】

●パートナーソングで楽しもう！

「パートナーソング」とは、二つの違うメロディー（旋律）を同時にうたいます。違う旋律が不思議に溶けあって、楽しいアンサンブル（2人以上が同時に演奏すること）になります。合唱の導入として使うことができます。

パートナーソングは、旋律やリズムの違いがはっきりしている方が面白い組み合わせになります。他にも組み合わせの選曲のコツとして専門的な条件があります。

いくつか曲の紹介をさせていただきます。ぜひ挑戦して楽しんでみてください。

- ・「かたつむり」と「証城寺の狸ばやし」
- ・「赤い靴」(2回繰り返す)と「月の沙漠」
- ・「おはぎがお嫁に」(アメリカ民謡)と「ロンドン橋」(イギリス民謡)
- ・「故郷の空」(スコットランド民謡)と「アビニョンの橋で」(フランス民謡)
- ・「旅愁」(オードウェイ作曲)と「レッドリバーバレー」(アメリカ民謡)

※参考文献 八木正一編著

「音楽授業を20倍楽しくするお話のネタ」より



一般社団法人

兵庫県音楽療法士会

〒651-0062

神戸市中央区坂口通2丁目1-1 兵庫県福祉センター 6F

一般社団法人兵庫県音楽療法士会事務局

TEL (078)261-9601 FAX (078)261-9602

E-mail: jimukyoku@hmta.jp

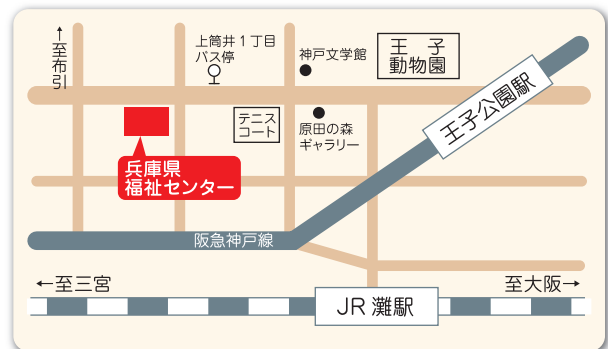
【アクセス】

JR 灘駅・阪急王子公園駅下車徒歩約10分

神戸市バス(90・92系統)上筒井1丁目バス停下車すぐ

【ホームページ】

<https://hmta.jp>



ホームページでは、音楽療法に関すること、会の活動や公開研修会の案内などをご覧いただけます。



2018年度 理事

財政部長 夏川美知子	企画部長 岸田由起	倫理部長 継岩典子	広報部長 杉浦昭代	事務局長 増井まり子
副理事長 井上恭子	理事長 鞆本尚子			



今号では、今年度の大きな事業である〈コンサート活動〉を約3ページにわたり掲載いたしました。また、〈音楽療法士と他の専門職との連携〉では、このテーマについて考えてみる手がかかりとなれば幸いです。

私は今年度、初理事、初広報部長、初広報誌作成と、何もかもが初めてで、平成最後の発行となる広報誌が無事完成し、ほっとしています。ご協力いただきましたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(杉浦 昭代)